

日本写真学会神奈川県立近代美術館 「マン・レイと女性たち」 学芸員写真展紹介付き講演会

第44回「写真好き」のための講演会は、神奈川県立近代美術館葉山でのリアルの講演会と作品鑑賞を行いました。

【日時】2022年11月29日（火）10:50~13:00

【主催】一般社団法人 日本写真学会「写真好き」のための定期講演会実行委員会

【協力】神奈川県立近代美術館

【会場】講演・展覧会会場：神奈川県立近代美術館 葉山 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1

【講演会形式】学芸員トークと展覧会鑑賞（自由鑑賞）

【プログラム】

10:50 集合 神奈川県立近代美術館 葉山館講堂 写真学会受付

11:00~11:50 「マン・レイと女性たち Man Ray and the Women」展 作品解説と質疑応答
担当学芸員 朝木 由香

11:50~ 展示会鑑賞・美術館探索（終了後自由解散）

神奈川県立近代美術館 「マン・レイと女性たち」
のポスターおよび展示作品例は、こちらをご覧ください。

➔ <http://www.moma.pref.kanagawa.jp/exhibition/2022-man-ray>

企画展の案内文

20世紀を代表する芸術家マン・レイ（1890-1976）。絵画やオブジェ、映画などジャンルを超えて活躍した彼は、とりわけ写真という新しいメディアの可能性を追求しました。レイヨグラフやソラリゼーションによる実験的な表現を生み出す一方で、自らが参加したダダやシュルレアリスム運動の記録、ポートレート、ファッション写真なども手がけました。彼がカメラに収めた「女性たち」に光を当て、約230点の作品からその軌跡を追う本展では、併せて日本におけるマン・レイの受容についても特集します。

「マン・レイと女性たち Man Ray and the Women」展 企画概要

20世紀を代表する芸術家マン・レイ（1890-1976）。絵画やオブジェ、映画などジャンルを超えて活躍した彼は、1920年代~30年代に成熟期を迎えつつあった写真という新しいメディアの可能性を追求しました。ウクライナとベラルーシ出身のユダヤ系の両親のもと、ニューヨークで育ち、画家を志した20代から本名のエマニュエル・ラドニツキーを改め、「マン・レイ」と名乗るようになります。

既存の価値観を破壊するダダの洗礼を受け、1921年にパリに移り、写真スタジオを設けると、自らが参加したシュルレアリスム運動の活動記録や作品写真、恋人や友人たちのポートレート、ファッション写真などを手がけます。多岐にわたるその作風は、レイヨグラフやソラリゼーションのような実験的な技法と相まって、独創的な表現世界を生みだしました。

本展は、とりわけマン・レイのまなざしが捉えた「女性たち」に光を当て、240点余の作品からその創作の軌跡を追うものです。ユーモアとエスプリに包まれた自由で豊かなイメージをお楽しみください。

展覧会の見どころ

1. 本展では、芸術家として歩み始めたニューヨーク、シュルレアリスム運動に参加し写真活動を開花したパリ、第二次世界大戦を逃れ移住したハリウッド、晩年に再び戻ったパリの4章で構成。絵画、彫刻、オブジェなど多様な作品からマン・レイの生涯を辿ります。

参加者の感想

絵画・オブジェ、映画などジャンルを超えて活躍した20世紀を代表する芸術家マン・レイ（1890-1976）が、その成熟期に写真スタジオを設け、自らの作品写真や恋人や友人たちのポートレート、ファッション写真を手がけ、当時レイヨグラフやソラリゼーション様な実験的な技法と相まって独創的な写真表現を具現化した。

「マン・レイと女性たち」展では、女性たちに焦点をあてた240点の作品を一挙に展示したマン・レイを知る恰好の場を提供してくれた。マン・レイの世界を味わうことが出来ました。感謝！感謝！

